

日中文化交流史

10

鈴木 靖

かなの誕生と唐風文化から国風文化へ

文字はヒトがコトバを記録するために発明した最初の道具です。

コトバを音声のまま記録できるようになったいまでも、文字はコトバを伝え合う道具として、私たちの文明を支えています。では、日本語を記録するための文字であるかなは、いつごろ誕生したのでしょうか。

日本語は初め、漢字を使って表記されていました。いわゆる万葉

仮名です。その起源は古く、大阪の難波宮跡からは7世紀中頃のものと思われる万葉仮名の書かれた木簡が見つかっています。

その後、万葉仮名の漢字は整理され、草書体による簡略化も進んで、ひらがなが誕生しました。2012年には京都の平安貴族の邸宅跡から、9世紀後半

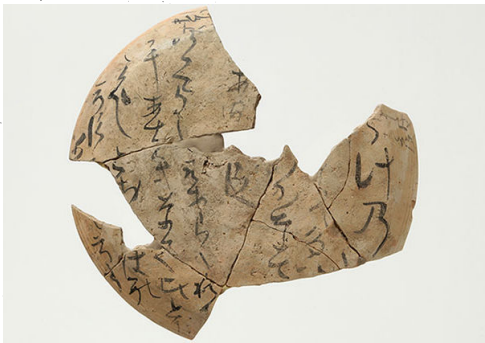
のものと思われる、ひらがなの書かれた土器片が見つかっています。

かなが誕生する以前、人びとは中国語（漢文）を学び、日本語を中国語に訳して書いていました。

しかし、かなが誕生したことで、日本語を日本語のまま書くことができるようになったのです。10世紀に入ると、『竹取物語』をはじめとして、かなで書かれた文学作

品が続々と誕生します。

かなが誕生した背景には、唐での異文化体験があったと考えられます。遣唐使の時代、唐には世界中からさまざまな国の使節や商人が集まっていました。使節の派遣回数でいえば、遣唐使は15回ですが、大食（アラビア）は37回、波斯は25回。736年には、遣唐使とともに波斯人も来朝しています。



9世紀後半の土器片に書かれた仮名（公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所）

こうした人びとの交流を通じて、日本は中国以外にも自らの文字で文明を築いた国々があることを知ります。そして「われわれは誰なのか？」を問い直すようになったので

す。

円仁の『入唐求法巡礼行記』によれば、819

年、唐の貿易商人・張寛清兄弟が日本の奥州に漂着しました。それ以降、2年に1度の割合で貿易船が来航するようになると、日中の交流は民間が中心となり、894年、唐の衰退を見た日本は、ついに遣唐使を廃止します。

こうして唐風文化の時代は終わり、国風文化の時代が始まりました。この国風文化の時代の到来を可能にしたのが、かなだったのです。

（法政大学 国際文化学部教授）